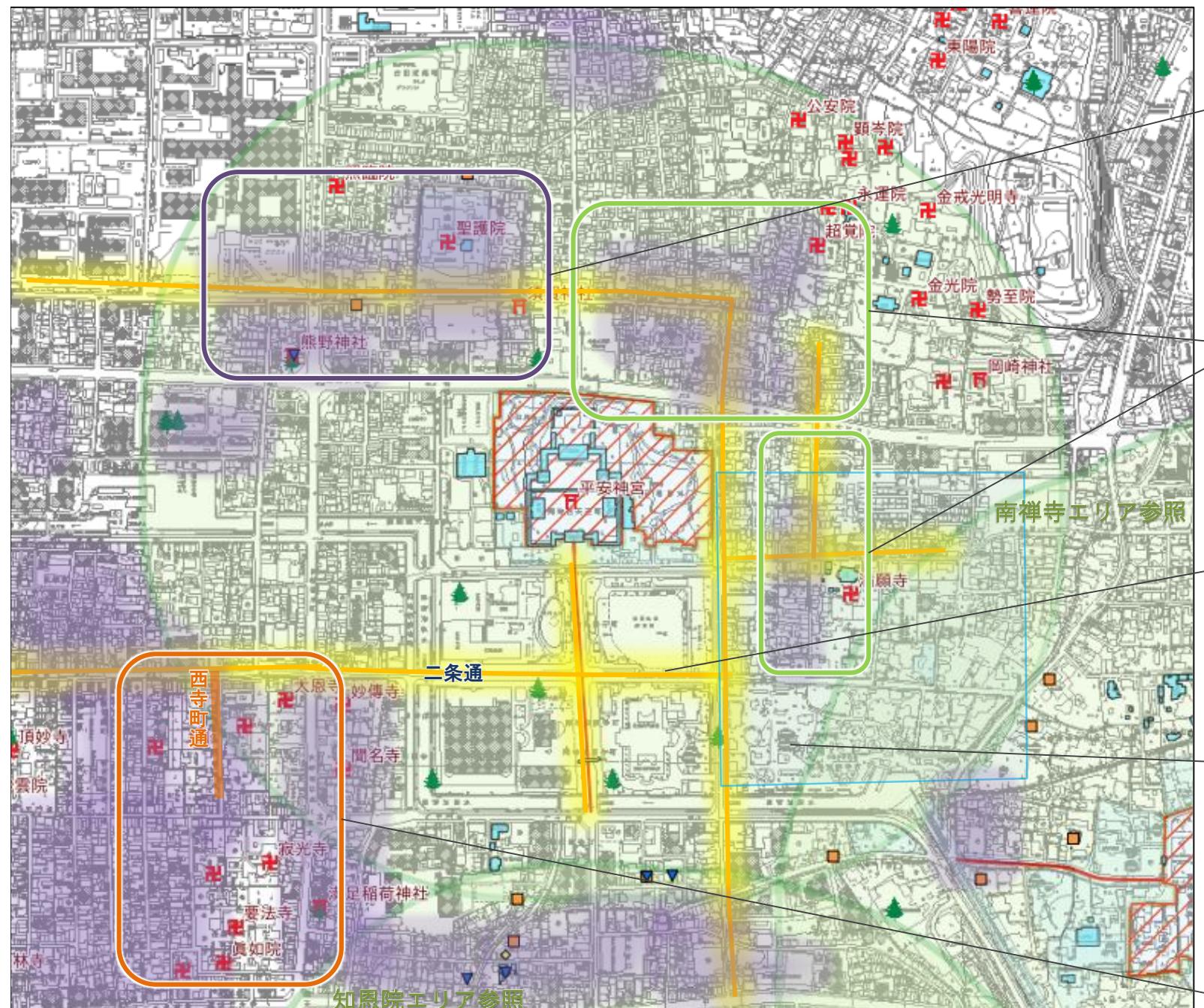




# エリアの概要



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

## 【凡例】

建造物・庭園	
■ 視点場（境内）	△ 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
— 視点場（参道等）	◆ 歴史的意匠建造物
■ 近景デザイン保全区域	● 界わい景観建造物
	■ 京を彩る建物や庭園
	■ 文化財（建築物）
	■ 文化財（史跡・名称）
■ ■ 国土地理院社寺データ等	※

樹木
▲ 天然記念物
■ 保存樹・区民の誇りの木

## 聖護院周辺

中世以降、岡崎の畠地の東、北を縁取るように、形成された、聖護院村は、白河街区の条坊に沿った街村の形態をとっている。<sup>5)</sup>  
現在も、聖護院周辺の一体的な景観を形成している。



聖護院周辺

## 満願寺・岡崎神社周辺

中世以降、岡崎の畠地の東、北を縁取るように、村落が形成された岡崎村は、白河街区の条坊に沿った街村の形態をとっていた。<sup>6)</sup>  
満願寺周辺の南北の通り周辺も市街化が早く、ところどころ古い建物が見られ、落ち着いた景観を形成している。



満願寺周辺

## 白河街区跡

白河街区の条坊は、現在の地割にもよく現存している。東西道では、主要道路である二条通が現在もよく踏襲され、聖護院の東西道も残る。条坊は基本的に残存している。<sup>7)</sup>

## 六勝寺跡

寂寥とした白河の地で、1077年に白河天皇（1053～1129）による御願寺・法勝寺造営が始まった。これを皮切りに、のちに法勝寺と合わせ六勝寺と総称される5ヶ寺が次々建立されていった。<sup>8)</sup>

現在、高さ80mを超えていたという法勝寺八角九重塔の特異な基礎地業の上に京都市動物園の観覧車が建っている。<sup>9)</sup>

## 西寺町通周辺

東大路通に出る手前を南北に走る通りは、西寺町と呼ばれ、そこには宝永5年（1708）の京都大火以降、寺町通にあった寺院が続々と引っ越ししてきた。

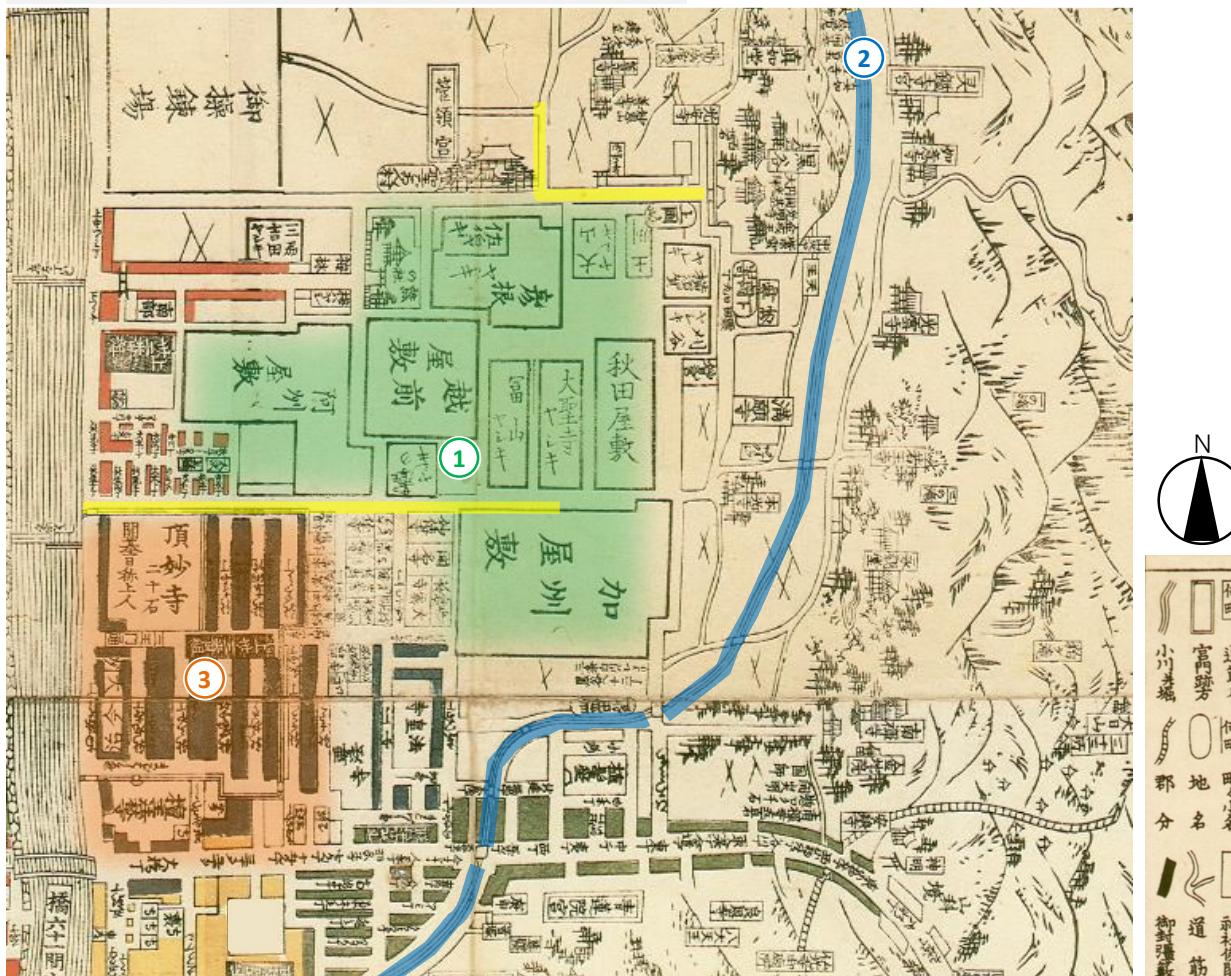
現在も、通りの周囲一帯に寺社の集積した景観が見られる。<sup>10)</sup>



西寺町通

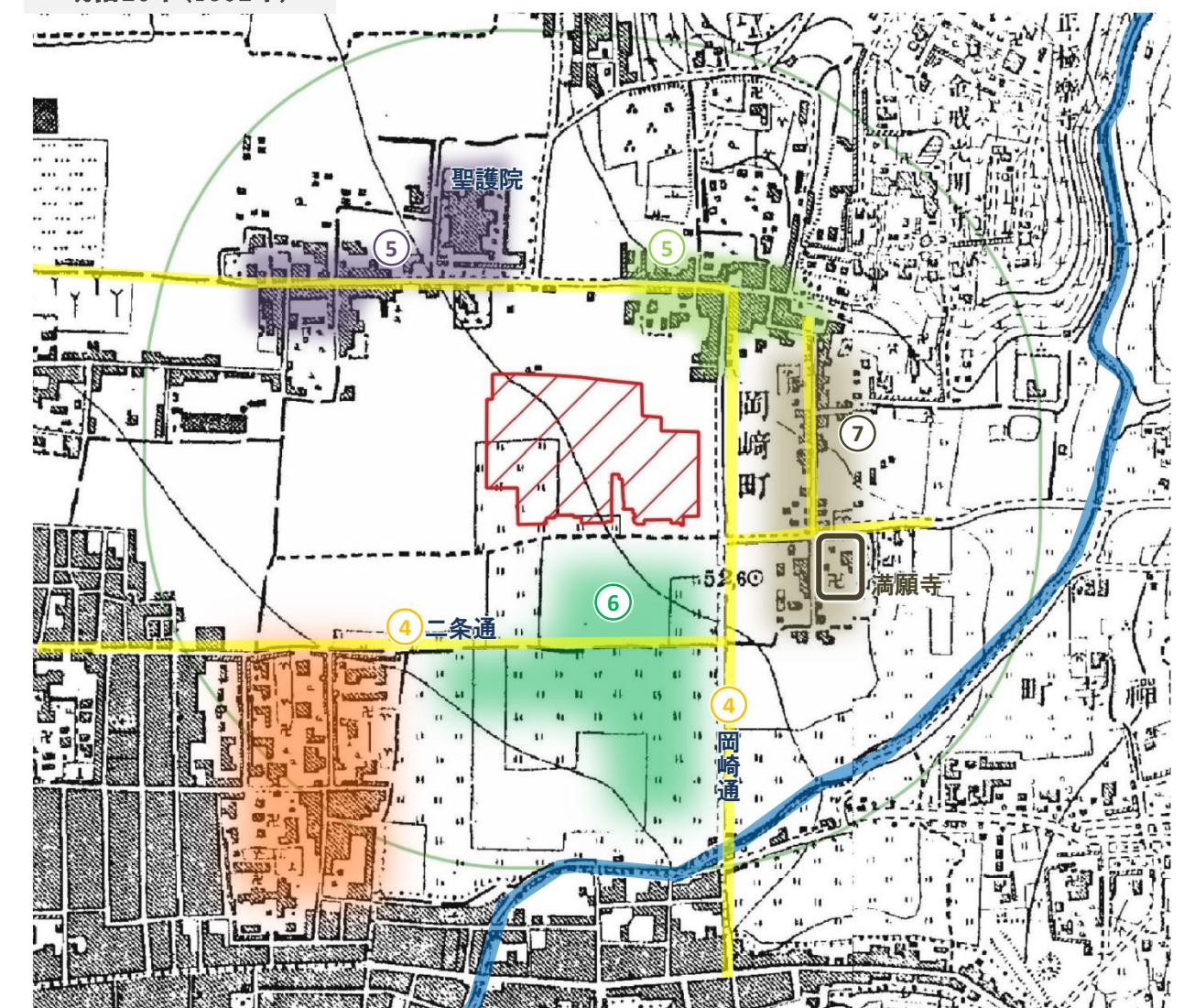
# エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

明治25年(1892年)



資料: 仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)  
画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

## ○ 白河と六勝寺

「岡崎村」はかつては、「白河」とも「上粟田」とも呼ばれていた。この白河の地は古くは藤原良房（白川大臣、804～872）以来、藤原家が別業を営んできた人里離れた寂しいところであった。

この寂寥とした白河の地で、1077年に白河天皇（1053～1129）による御願寺・法勝寺造営が始まった。これを皮切りに、のちに法勝寺と合わせ六勝寺と総称される5ヶ寺が次々建立されていった。<sup>11)</sup>

## ① 幕末の藩邸建設

京都が政治都市化した幕末には、岡崎の畠地を利用して加賀藩、阿波藩等の大規模な藩邸が建設され、岡崎村が空地のないほどに埋め尽くされた。<sup>12)</sup>

## ② 白川

江戸時代までは白川がこの地を潤し、園池や畠作、あるいは手工業にその水が利用された。<sup>13)</sup>

## ③ 西寺町通周辺

東大路通に出る手前を南北に走る通りは、西寺町と呼ばれ、そこには宝永5年（1708）の京都大火以降、寺町通にあった寺院が続々と引っ越ししてきた。寂光寺、専念寺などは宝永の大火灾後移転した寺院である。<sup>14)</sup>

## ④ 白河街区が残る通り 二条通・岡崎通等

白河街区の条坊は、現在の地割にもよく現存している。東西道では、主要道路である二条通が現在もよく踏襲され、聖護院の東西道も残る。南北道は、旧法勝寺西縁の法勝寺車道が「広道」としてそのまま残る。すなわち条坊は基本的に残存している。<sup>15)</sup>

## ⑤ 岡崎村・聖護院村

中世以降、岡崎の畠地の東、北を縁取るように、村落が形成された。後の岡崎村と聖護院村である。いずれも白河街区の条坊に沿った街村の形態をとっている。白河街区の中心が畠地となり、集落が周縁部に位置するのは、六勝寺が存立している間に集落が徐々に形成され、六勝寺と入れ替わるように畠地が発達していくということを示すものであろうか。<sup>16)</sup>

## ⑥ 幕末の藩邸建設

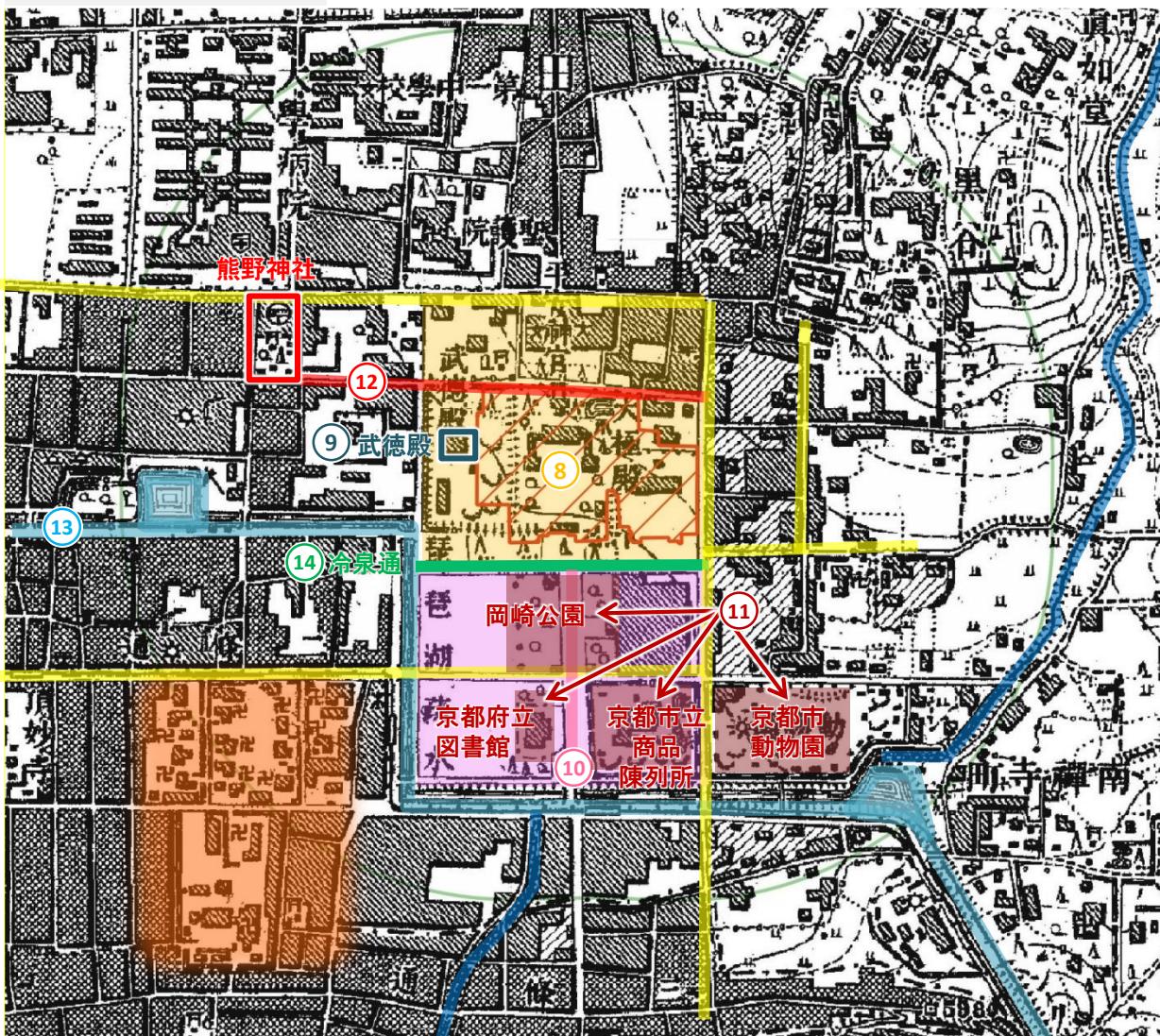
明治初期には再び藩邸が撤去され、畠地に戻る。<sup>17)</sup>

## ⑦ 满願寺

満願寺周辺は既に市街地化が進んでいる。

## エリアの土地利用の変遷（2）

大正元年(1912年)



資料:正式地形図(大正元年)(国土地理院所蔵)  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

### ⑧ 内国博覧会・平安神宮の設立

明治政府が海外の万国博に学び、国内の殖産興業を目的として開いた博覧会。第四回は平安奠都千百年を記念して、明治二八年に、当時野菜畑と雑木林が混在した岡崎町で開かれた。<sup>18)</sup>

明治二八年に、平安神宮が隣接して創建され、この建築群は、もともとは平安京の大極殿を復元し、上記の平安奠都千百年祭の記念殿として計画されたものが、途中から桓武天皇を祀る神社創建のための社殿に変更され建設されたものだった。<sup>19)</sup>

### ⑨ 旧武徳殿

平安神宮の東に、平安神宮創建の4年後の明治32年(1899)に、武徳殿として建てられた寺院のような建物であり、わが国伝統の建築意匠の建築物である。<sup>20)</sup>

### ⑩ 神宮道

岡崎周辺に近代に施された地割の中で、明らかな振れを持つのが神宮道である。この振れが生じた原因については、博覧会場の造成と平安神宮造営の経緯の中にみいだすことができる。

明治28年(1895)に開催された平安遷都千百年記念祭及び第四回内国勧業博覧会博覧会場敷地は、南、西は疎水により規定されるものの、他は概ね既存の地割を継承して設定された。祈念殿の位置がまず定められ、そこに合わせて施設や門が配置された結果、周囲の地割と微妙なずれが生じた。

その後、明治32年(1899)12月に應天門前の冷泉通から疎水慶流橋までの間の市有地が風致保存のために官有地となり、平安神宮参道として、慶流橋と應天門を結ぶ、白河街区の軸線から振れた神宮道が通された。<sup>21)</sup>

平成23年に策定された「岡崎地域活性化ビジョン」の取組のひとつとして、平成26年に「左京区岡崎における神宮道(冷泉通～二条通)と公園の再整備基本計画」を策定した。この基本計画に基づき、歩いて楽しい岡崎のシンボルとなることを目指して、神宮道の一部を廃止して公園とする再整備工事を行い、平成27年に完成した。

### ⑪ 京都府立図書館、京都市動物園、岡崎公園の開園

明治28年の内国勧業博覧会終了後は、常設の博覧会場が作られ、毎年のように各種の博覧会が開催された。しかし、その会場計画は、現在の二条通、神宮道を中心に区画される敷地割にしたがうようになる。そして、しだいにその区画に沿って、各種の公共施設が設置されるようになり、岡崎は博覧会場から、いわゆる文化ゾーンへと移行していくのである。

まず、明治36年(1903)に、東宮(大正天皇)の成婚紀年として、京都市立紀年動物園が内国勧業博覧会の動物館の跡地に開設された。それにともない、岡崎の博覧会会場の大半が講演として指定されることになる。(開園は明治37=1904年)そして、明治42年(1909)に京都府立図書館が建てられ、翌年には、その東側の現在の京都市美術館の敷地に、市立商品陳列所が設置された。

### ⑫ 丸太町通

明治27年(1894)に熊野神社境内を貫き、東に延長された。<sup>22)</sup>

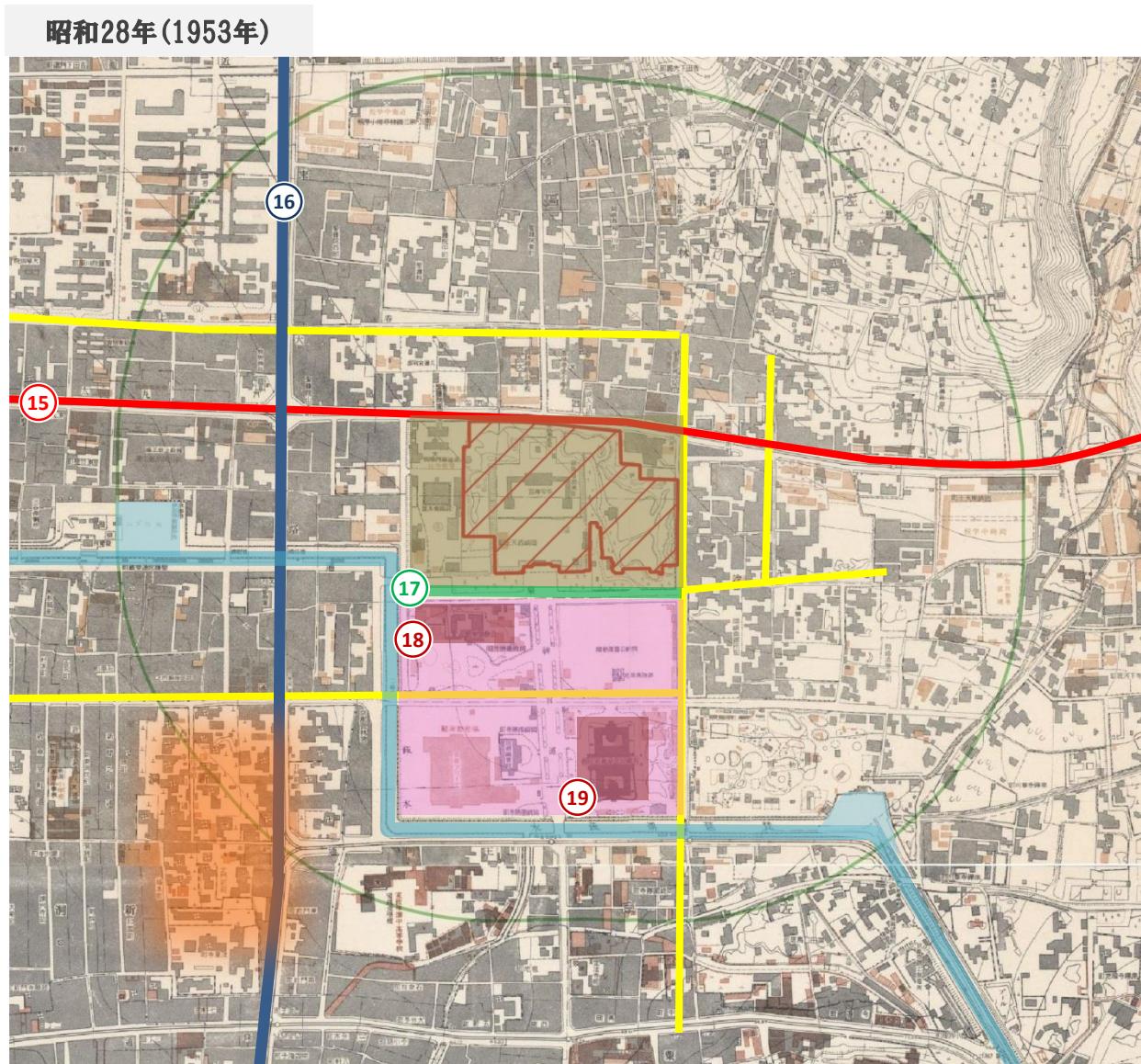
### ⑬ 琵琶湖疏水

一面農村風景であった岡崎の景観は、明治23年(1890)の琵琶湖疏水の建設により、沿線の土地利用に大きな変化をもたらした。<sup>23)</sup>

### ⑭ 冷泉通

開設は明治23年の疏水開通や同28年の平安神宮設立以降である。<sup>24)</sup>

## エリアの土地利用の変遷（3）



昭和10年都市計画図の内容

昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)  
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))  
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

### ⑯ 丸太町通

大正元年の市電開通に合わせて、大正2年（1913）には、開削・拡幅された。<sup>25)</sup>

### ⑯ 東大路通

大正元年の市電開通に合わせて、開削・拡幅された。<sup>26)</sup>

### ⑰ 冷泉通

開設は明治23年の疏水開通や同28年の平安神宮設立以降である。<sup>27)</sup>

### ⑱ 岡崎公会堂

京都市が市民の集会場所として、大正6年（1917）6月に、岡崎公会堂を岡崎公園内に建設した。昭和9年の室戸台風で倒壊し、現在の建物は、同4年5月に焼失し翌5年8月に再建された東会館で、京都会館の別館に使用されている。<sup>28)</sup>

### ⑲ 京都市美術館

大正8年（1919）に陳列所と第一勧業館を撤去して、京都市美術館が完成した。<sup>29)</sup>

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

## 平安神宮境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(1)

平安神宮

岡崎公園の北に位置する。明治28年（1895）平安奠都千百年祭に際し、京都市民の氏神として新たに創建された。祭神は桓武天皇・孝明天皇。旧官幣大社。創建は同25年に経済学者田口卯吉の進言により市会で可決され、同26年9月2日に地鎮祭が行われた。翌27年7月1日に立柱式が営まれ、同2日に平安神宮と称し官幣大社に列せられることが決定（平安遷都記念祭記事），同28年2月25日に竣工（京華要誌）。同年3月15日に鎮座式が挙行された（日出新聞）。総社域二万二千坪。

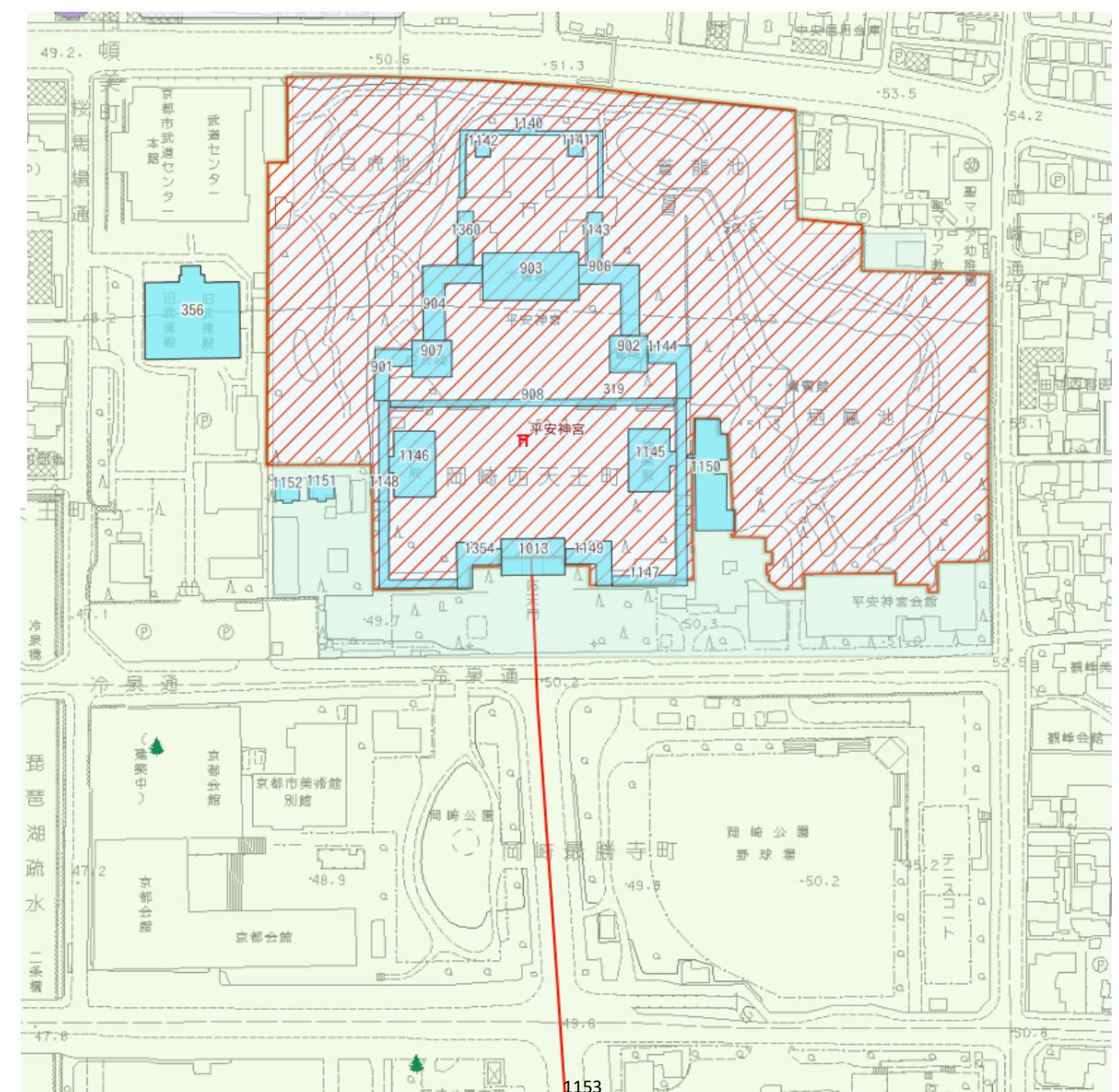
社殿は碧瓦丹塗で平安宮大内裏を約八分の五に縮小、模造したもので、木子清敬・伊東忠太の設計である。神宮道に建つ大鳥居（昭和3年完成）正面の二層の楼門は應天門を模し、白砂敷の奥に大極殿を模した拝殿、拝殿左右に歩廊で連なる蒼龍樓（東）・白虎樓（西）を配し、奥に素木造の本殿二棟が建つ。

背後には明治28年に岡崎で開催された第四回内国博覧会の東方美術館跡敷地を利用した約六千坪の回遊式庭園がある。平安神宮神苑として国の名勝に指定されている。東・中・西の三庭からなり、造園家小川治兵衛の手になる。

現在葵祭・祇園祭とともに京都三大祭の一として知られる時代祭は、平安神宮の祭礼である。なお本殿は昭和51年正月に焼失。同54年春再建された。<sup>30)</sup>

■ 文化財

国指定重要文化財	旧武徳殿	356	蒼龍樓	902	大極殿	903
	西歩廊	904	東歩廊	906	白虎樓	907
	附 龍尾壇	908	應天門	1013		
国登録文化財	透塀及び後門	1140	東神庫	1141	西神庫	1142
	内廻廊(東)	1143	南歩廊(東)	1144	神樂殿	1145
	額殿	1146	東門及び東外廻廊	1147	西門及び西外廻廊	1148
	神門翼廊(東)	1149	斎館	1150	東祭器庫	1151
	西祭器庫	1152	大鳥居	1153	南歩廊(西)	901
	内廻廊(西)	1360	神門翼廊(西)	1354		
国指定名勝	神苑	319				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

### 【例】

- |  |  |   |
|--|--|---|
|  視点場（境内）    |  景觀重要建造物・歴史的風致形成建造物 |  樹木          |
|  視点場（参道等）   |  歴史的意匠建造物           |  天然記念物       |
|  近景デザイン保全区域 |  界わい景觀建造物           |  保存樹・区民の誇りの木 |
|  |  京を彩る建物や庭園          |   |
|  |  文化財（建築物）           |   |
|  |  文化財（史跡・名称）         |   |

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m<sup>2</sup>以上の社寺データ

# 平安神宮境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(2)

## [国指定重要文化財]



旧武徳殿※



蒼龍樓※



大極殿※



東歩廊※2

## [国指定名勝]



神苑



白虎樓※



附 龍尾壇 ※2



應天門※

## [国登録文化財]



透屏及び後門※



東神庫※



西神庫※



内廻廊（東）※



南歩廊（東）※



神樂殿※



額殿※



東門及び東外廻廊※



西門及び西外廻廊※



神門翼廊（東）



斎館※



東祭器庫※



西祭器庫※



大鳥居※



南歩廊(西)※



内廻廊（西）※

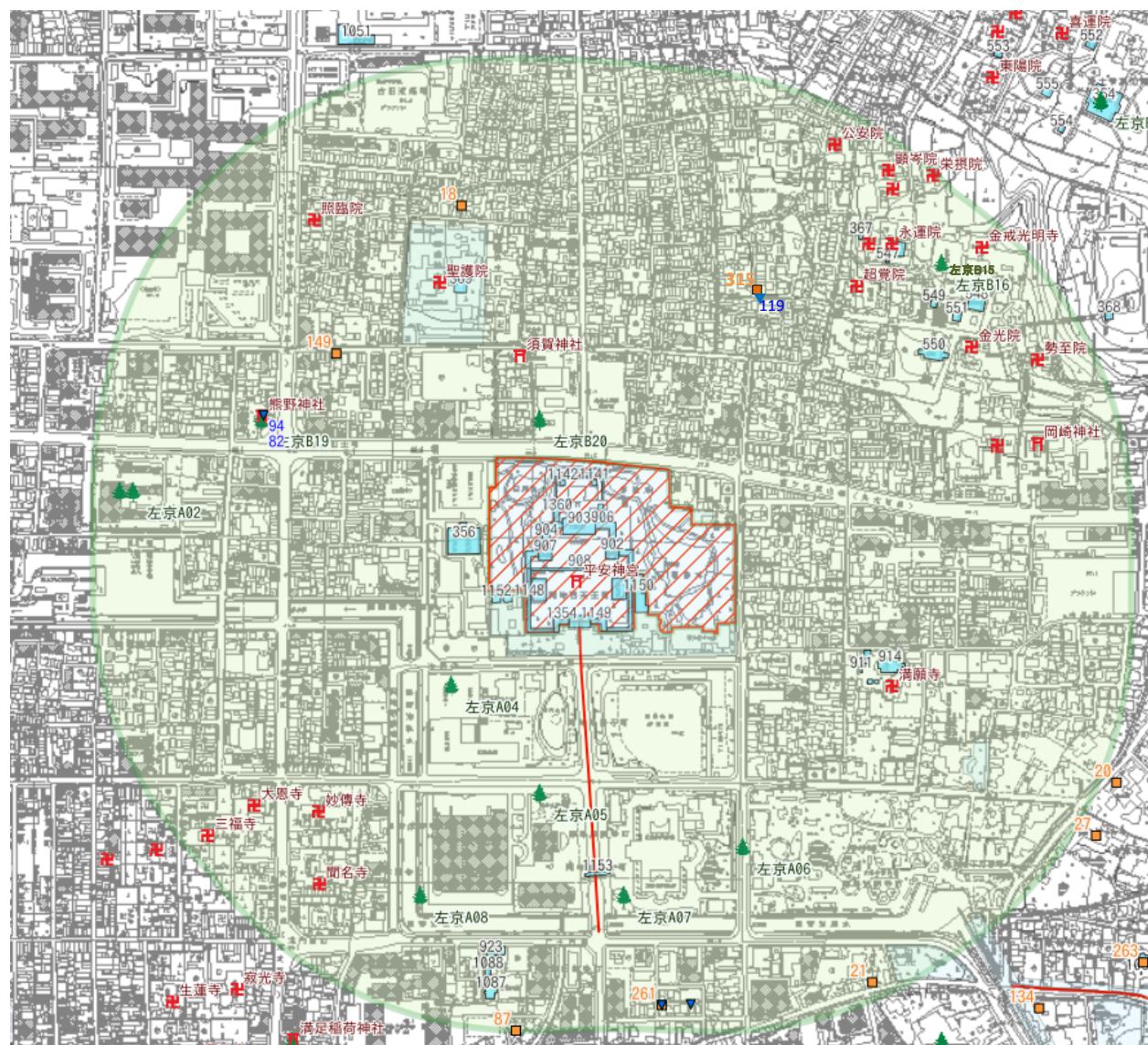


神門翼廊（西）※

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

※2：（画像）Googleストリートビュー

# 平安神宮周辺の歴史的資産(1)



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

## 【凡例】

建造物・庭園	
■ 視点場（境内）	△ 景觀重要建造物・歴史的風致形成建造物
— 視点場（参道等）	◆ 歴史的意匠建造物
■ 近景デザイン保全区域	● 界わい景觀建造物
■ 京を彩る建物や庭園	■ 保存樹・区民の誇りの木
■ 文化財（建築物）	
■ 文化財（史跡・名称）	
■ 國土地理院社寺データ等	▲ 天然記念物
■ 國土地理院社寺データ等	■ 保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m<sup>2</sup>以上の社寺データ

## ■ 聖護院

[重要文化財(書院), 国指定史跡(聖護院旧仮皇居)]

黒谷の東、平安神宮の北に位置する。円珍の草創になる天台宗門宗の門跡寺院であり、本山修験宗の大本山を兼ねる。本尊不動明王。聖護院旧仮皇居として国の史跡に指定されている。<sup>31)</sup>



聖護院旧仮皇居※1  
国指定史跡

## ■ 満願寺

[市指定文化財(本堂等)]



本堂等  
市指定

満願寺本堂は宝永元年(1704)までに造営されたもので、市内に残る日蓮宗の一般寺院本堂としては古い。桁行3間・梁行1間の身舎の周囲に1間幅の裳階をまわして背面に内陣部を突出し、その後方に土蔵造の奥陣を付設した複合建築である。境内には鐘楼、手水舍・表門・文子天満宮本殿・同拝殿などが残っており、江戸時代中期における日蓮宗の一般寺院の寺觀をよく伝えている。

## ■ 白河院庭園

[市指定名勝]



庭園  
市指定

白河院庭園は7代目小川治兵衛（植治）によって手がけられたものであり、呉服業を営んでいた下村忠兵衛の所有となった翌年の大正8年(1919)に竣工した。造営当初は、東山を背景とする庭園に面して、二階建ての和館と洋館が南北に並立していた。洋館と和館の一部は昭和33年(1958)に取り壊されたが、その際にも庭園部分は殆ど改変を受けなかった。庭園は南北に細長い園池を中心とし、園池の東半周を囲む築山上に群植されたアカマツやイロハモミジ越しに、東山を望む大らかな敷地構成をとり、建物との間には明るい雰囲気の芝生広場が広がる。東山の眺望を活かした、植治の円熟期の技が随所に現れた貴重な庭園である。

## ■ 真如堂



※2

黒谷の北に位置する。天台宗、鈴声山と号する。正式には真正極楽寺と称し、本尊阿弥陀如来。大永4年（1524）に真如堂住持昭淳が画工掃部助久国に命じて作成した真如堂縁起によれば、開基は比叡山延暦寺戒算で、永觀2年（984）一条天皇の母東三条院藤原詮子の御願により、延暦寺常行堂にあった阿弥陀如来像を神樂岡（吉田山）の東にあった女院離宮に移し、正暦3年（992）に寺としたのが起源という。<sup>32)</sup>

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

※2：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

# 平安神宮周辺の歴史的資産(2)

## 金戒光明寺

[重要文化財(西扇院茶室等), 府指定文化財(阿弥陀堂等), 国登録文化財(御影堂等)]

紫雲山と号する浄土宗寺院。本尊阿弥陀如来。俗に黒谷の名で知られ、かつては京都知恩院、清淨華院（現京都市上京区）、百万遍知恩寺（現左京区）とともに、四カ本山の一であった。

寺伝によれば所在地はもとは栗原岡といい、比叡山延暦寺の寺領で白河禪房の旧地と伝え、比叡山黒谷の叡空のもとにあった源空（法然）が師よりこの禪房を譲られ、念佛道場としたのが草創という。比叡山黒谷に対し、新黒谷とよばれているが（東北歴覧之記），今日では単に黒谷の名をもって称せられる。

金戒光明寺は桜の名所としても知られた。

塔頭は松樹院・光安寺・永運院・蓮池院・西雲院・西翁院・金光院・長安院・龍光院・栄摸院・顯岑院・瑞泉院・善教院・超覚院・西住院・上雲院・淨源院・勢至院・常光院がある。<sup>33)</sup>



阿弥陀堂※1  
府指定



鐘楼※1  
府指定



山門※1  
府指定



經堂※1  
府登録



御影堂※1  
国登録



大方丈  
国登録



唐門  
国登録



築地塀  
国登録

## 金戒光明寺 塔頭

### 西翁院



西翁院

### 永運院



永雲院表門  
重文

## 京都市美術館



昭和8年開館。京都で行われた今上天皇の即位大典を記念して、寄付金により建設。発足時は大礼記念京都美術館と称し、同21年から駐留軍が接收、同27年に京都市美術館となった。<sup>34)</sup>

約2年に及ぶ改修工事を経て、令和2年3月21日にリニューアルオープンした。正式名称は京都市美術館であるが、リニューアルオープン後の愛称は、京都市京セラ美術館である。

## 京都会館(ロームシアター京都)



左京区岡崎町最勝寺町にある京都市の総合的文化施設。国際的な会議も行う。地上三階、地下一階で約2400名収容の第一ホール、約1000名収容の第二ホールと約400名収容の会議室のほか、5つの会議室がある。設計は前川國男。昭和33年7月着工し、35年4月に開館。建設の財源は起債を主とし、その償還は文化観光施設税をあてた。名称は市民からの公募。隣接して昭和5年8月建設の別館（旧岡崎公会堂）がある。<sup>35)</sup>

## 旧岡崎公会堂



昭和9年の室戸台風で東海。現在の建物は、同4年5月焼失し翌5年8月に再建された東館で、京都会館の別館に使用。<sup>36)</sup>

## 京都府立図書館



明治15年、集書院閉鎖後、同23年に設けられた京都府教育界附属図書館が同33年に閉鎖したので、同42年現在地に新築移転。<sup>37)</sup>

## 京都国立近代美術館



昭和38年4月、旧京都勧業館別館を改装して開館。初めは国立近代美術館（東京）の京都分館とし、工芸中心の展観を企画したが、現在は近代美術全般にわたり各種の展覧会を催す。昭和42年独立して現名となる。<sup>38)</sup>

※1：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

※2：（画像）Googleストリートビュー

# 平安神宮周辺のその他の歴史的資産

## 岡崎別院



左京区岡崎東天王町にある東本願寺の別院。宗祖親鸞が承元元年（1207）の越後配流より帰洛後ここに住んだといい、親鸞屋敷とも俗称。享和元年（1801）本願寺二〇世達如が寺とし、岡崎御坊と呼ばれた。境内西にある庭園は風趣に富み、華頂山晴雪など佳絶八景がある。本堂西の鏡池は、親鸞が越後配流の際その姿を写したといい姿見池の名がある。<sup>39)</sup>

※1

## 岡崎公園



左京区岡崎にある京都市営の総合公園。都市公園法に基く都市基幹公園。明治28年に開催された第4回国勧業博覧会敷地跡に同37年解説。面積10万3101平方メートル。平安奠都（てんと）1100年紀念祭で造営された。平安神宮に接する。<sup>40)</sup>

## 景観上重要な建築物、庭園等

### 川端彌之助のアトリエ



洋画家である川端彌之助（1893～1981年）のアトリエとして大正14年（1925）に建築。愛用のイーゼルや書籍がそのまま残され、当時の様子を今に伝えている。

■18

川端彌之助アトリエは、戦前から戦後にかけて京都を中心に活躍した洋画家・川端彌之助がフランス留学より帰国後の大正14年（1925）に建てたアトリエ兼住居の建物である。敷地は聖護院北側の道路に南面し、建物は、木造2階建セメント洋瓦葺で、基礎を煉瓦造りとし、外壁は、モルタル仕上げ（一部サイディング）、急勾配屋根の南側妻面にはハーフティンバー風の意匠を備える。内部は、1階にアトリエのほか2室の応接室と台所、2階は寝室、子ども室、着替え室を配し、天井、壁共に漆喰塗で、玄関床のタイルや階段手摺のデザインなどは洋風仕上げとなっている。アトリエは2層分の吹き抜けとし、安定した照度を求め、北面採光を取り入れた高窓を備える。川端彌之助アトリエは、室内の構成や仕上げのほか、照明器具など建築当初から残っている部分が多く、大正末期のアトリエのある住宅として希少であるとともに、聖護院界隈の歴史を伝える重要な建物である。

### 聖護院八つ橋



元禄2年（1689）にこの地で創業した。近世筝曲の開祖といわれる八橋検校が葬られた黒谷金戒光明寺の参道に茶店を設け、検校の遺徳を偲び、琴の形を象った干菓子を「ハツ橋」と名付け販売したのが始まりと言われている。明治には多くの文豪が訪れた。

■149

## 栗原邸

[歴史的風致形建造物 京都を彩る建物や庭園]

鴨東の文教地区としての近代の宅地開発の流れを汲む土地に建つ和風住宅で、その後の改修により8つの座敷と門や玄関を備え、もてなしの場として活用されていたことが伺える。近代の郊外開発の歴史と近代和風建築の歴史的意匠を現代に継承する。



▼119 ■315

大正期に建てられたと思われる近代数寄屋。座敷を中心とした間取りから、居宅ではなく、接客のために建てられたと考えられる。

### 〔国登録文化財〕



藤井斎成会有鄰館第二館※1  
国登録



藤井斎成会有鄰館収蔵庫※1  
国登録



関西美術院※1  
国登録

### 〔市登録文化財〕



藤井斎成会有鄰館第一館  
市登録

## 樹木

名称	天然記念物	保存樹	区民の誇りの木
イチョウ：京都大学（熊野寮）			左A01
クスノキ：京都大学（熊野寮）			左A02
ケヤキ：京都会館（ロームシアター京都）			左A04
ケヤキ：岡崎公園			左A05
クロマツ：岡崎通			左A06
ヒマラヤスギ：京都市美術館			左A07
ソメイヨシノ：琵琶湖疏水			左A08
クロマツ：金戒光明寺		指定あり	左B15
シマモクセイ：金戒光明寺			左B16
ムクノキ：熊野神社			左B19
ケヤキ：錦林小学校			左B20

※1：（画像）Googleストリートビュー

※2：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

# 景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

## 東山風致地区

### 【概況】

地区全体として、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山、如意ヶ嶽、稻荷山、深草、大日山、安祥寺山等の山並みや、吉田山等の緑が保全されている。また、山科北東（毘沙門堂）の山地では、林業による植林等が施され、緑豊かな森林となっている。

各地域の山ろく部の社寺境内地の社寺林や参道の樹林、天智天皇陵等の緑地、京都国立博物館、蹴上淨水場や深草墓園等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一緒に量感のある緑地空間を形成している。

屋敷周りの生垣や庭木、敷地規模が比較的大きい住宅地における生垣や庭木等により、緑の豊かな地域環境となっている。

### 【良好な景観の形成に関する方針】

- 岡崎公園一帯の和風建築による落ち着きのある環境や無鄰菴等から東山の借景

岡崎公園一帯は、わが国でも有数の文化施設が集積した地域である。神宮道及び仁王門通沿道は、岡崎公園の諸施設とも関連して、近代的デザインで3階建て以上の堅牢建築物が多く建つ。一方、山ろく部の住宅では緑豊かな日本瓦ぶき和風建築による落ち着きのある環境を形成している。

ここでは、平安神宮や庭園群からの借景空間の保全や南禅寺北西に広がる邸宅群の景観の保全、総門に至る門前、仁王門通、神宮道、岡崎道や疏水沿線等の沿道景観の整備、無鄰菴等から東山の借景を望む視線の方向となる南禅寺参道における高さの抑制、意匠・形態等に重点を置く。

## 山並み背景型美観地区（聖護院・吉田山周辺）

聖護院・吉田山周辺地域は、東は白川通、北は御蔵通と今出川通、西は京都大学、南は平安神宮、岡崎公園や琵琶湖疏水に囲まれた地域である。吉田山・黒谷には、吉田神社、真如堂、金戒光明寺等の社寺が立地し、それぞれ特徴的な景観を形成している。また銀閣寺道、東一条通、丸太町通から、沿道の社寺と一緒に東山の山並みを眺望することができ、東山を感じることができる。

こうした地域の景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

そのため、社寺周辺の建築物については、勾配屋根の和風基調の外観を基本とし、敷地内の緑化を充実するなど、歴史的な町並み景観の保全を図るとともに、東山山ろくの緑豊かな自然景観との調和に配慮する。

## 岸辺型美観地区（岡崎疏水）

岡崎疏水地域は、岡崎を流れる琵琶湖疏水及び水路沿いの市街地を含む。琵琶湖疏水は、京都の近代化に貢献し、今日なお、京都の飲料水を供給する市民の生活に欠くことのできない水路である。この琵琶湖疏水は、豊かな水量と疏水沿いの柳や桜等の樹木と調和し、潤いと緑豊かで良好な岸辺景観を形成している。こうした景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。

このため水路に面する建築物は、疏水沿いの樹木や東山の山並みと調和するよう、敷地内を積極的に緑化するように誘導する。また、地域の景観特性にかんがみ、現代建築物や洋風建築物は、岸辺や緑等の自然景観と調和するよう特に配慮し、良好な岸辺景観を保全する。



1) 岡崎公園東側の町並み



2) 岡崎通の町並み



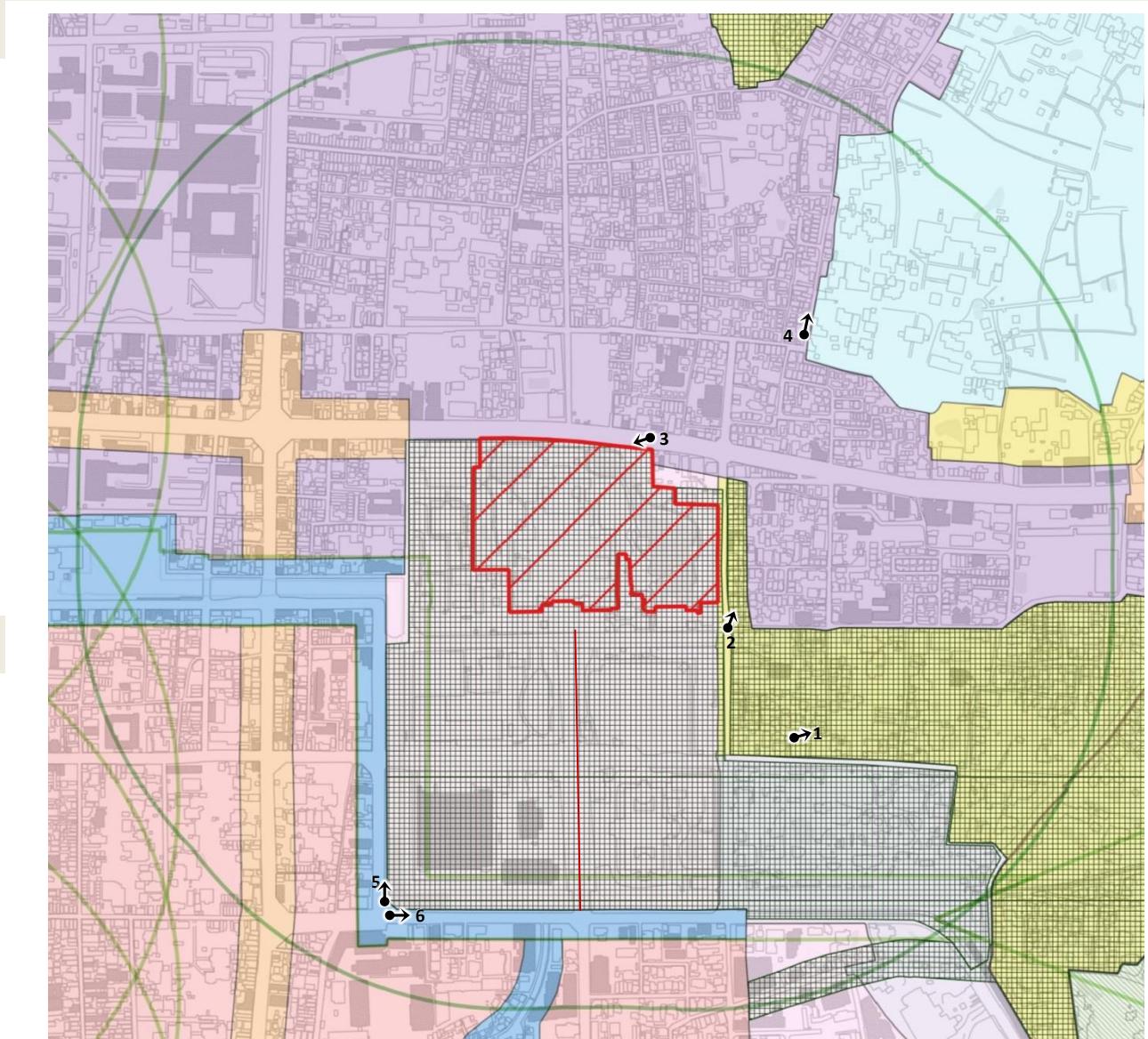
3) 丸太町通の町並み



4) 金戒光明寺西側の町並み



5) 6)  
疎水周辺の町並み



### 【凡例】

- |              |              |                 |
|--------------|--------------|-----------------|
| 眺望景観保全区域     | 景観地区         | 建造物修景地区         |
| ■ 視点場（境内）    | ■ 山ろく型美観地区   | ■ 山ろく型建造物修景地区   |
| — 視点場（参道等）   | ■ 山並み背景型美観地区 | ■ 山並み背景型建造物修景地区 |
| ■ 近景デザイン保全区域 | ■ 岸辺型美観地区    | ■ 岸辺型建造物修景地区    |
- 
- |             |                         |               |
|-------------|-------------------------|---------------|
| 風致地区        | ■ 歴史遺産型美観地区 一般地区        | ■ 伝統的建造物群保存地区 |
| ■ 風致地区第1種地域 | ■ 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区 | ■ 歴史的風土保存地区   |
| ■ 風致地区第2種地域 | ■ 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区   | ■ 歴史的風土特別保存区域 |
| ■ 風致地区第3種地域 | ■ 重要界わい景観整備地域           |               |
| ■ 風致地区第4種地域 | ■ 沿道型美観地区               |               |
| ■ 風致地区第5種地域 | ■ 市街地型美観形成地区            |               |
| ■ 風致特別修景地区  | ■ 沿道型美観形成地区             |               |

- |                 |
|-----------------|
| ■ 山ろく型建造物修景地区   |
| ■ 山並み背景型建造物修景地区 |
| ■ 岸辺型建造物修景地区    |
| ■ 町並み型建造物修景地区   |

- |               |
|---------------|
| その他           |
| ■ 伝統的建造物群保存地区 |
| ■ 歴史的風土保存地区   |
| ■ 歴史的風土特別保存区域 |

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

## (資料)

- 1) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.598
- 2) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.248
- 3) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.40
- 4) 同上, p.24
- 5) 同上, p.39
- 6) 同上, p.39
- 7) 同上, p.38
- 8) 同上, p.56
- 9) 同上, p.52
- 10) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.248
- 11) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.56
- 12) 同上, p.39
- 13) 同上, p.27
- 14) 千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路. 小学館. 1994. p.248
- 15) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.38
- 16) 同上, p.39
- 17) 同上, p.39
- 18) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.679
- 19) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.78
- 20) 同上, p.78
- 21) 同上, p.40
- 22) 同上, p.41
- 23) 同上, p.24
- 24) 同上, p.986
- 25) 同上, p.41
- 26) 同上, p.41
- 27) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.986
- 28) 同上, p.135
- 29) 国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室 編 . 京都岡崎の文化的景観調査報告書. 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課. 2013. p.80
- 30) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.598
- 31) 同上, p.337
- 32) 同上, p.394
- 33) 同上, p.267-p.269
- 34) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.284
- 35) 同上, p.271
- 36) 同上, p.135
- 37) 同上, p.304
- 38) 同上, p.277

## (町並み版)

※(町並み版)とは...

プロファイルを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

# ■ 1 平安神宮からの眺望景観

## 【周辺の特徴】

- ・仁王門通から北に向かう神宮道には、京都市京セラ美術館や京都府立図書館、ロームシアター京都などの近代建築物が建ち並ぶエリアである。
- ・広大な敷地を有する視点場内からは、周辺の建造物等が見えないよう工夫がされている。
- ・境内や参道から東向きには、東山の緑が借景となっており、沿道の緑や琵琶湖疏水などと相まって、豊かな自然景観を形成している。



1-1 仁王門通から南への眺望  
: 神宮道沿いには、商業ビル等が見える。



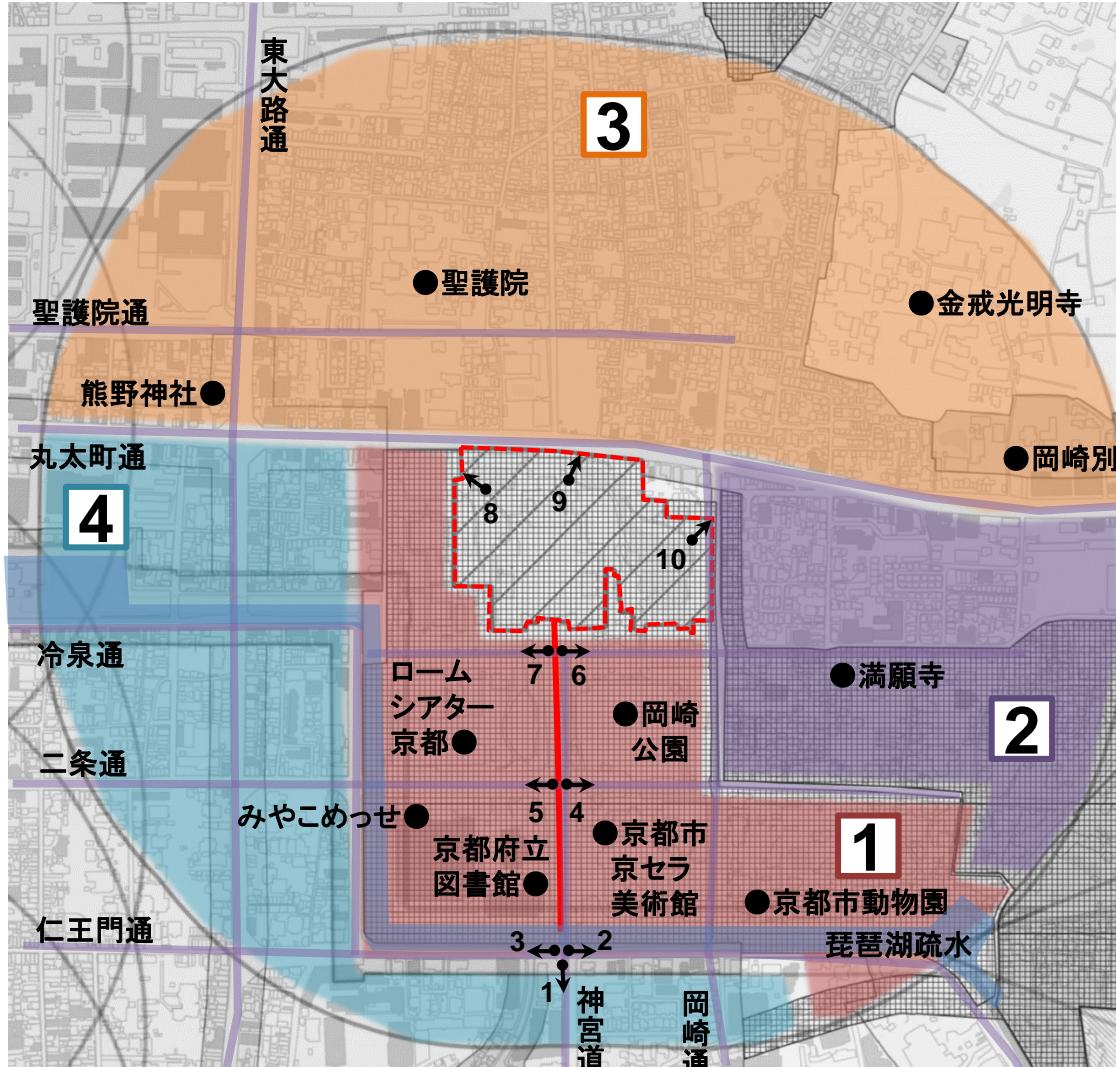
1-2 仁王門通から東への眺望  
: 宿泊施設や商業ビルの並ぶ通りの正面に東山が見える。



1-3 仁王門通から西への眺望  
: テナントビルや会館が見える。通りの右手には疏水が流れる。



1-4 二条通から東への眺望  
: 東山を背景に京都市京セラ美術館が見える。



□ 視点場(境内)

— 視点場(参道等)

— 主な通り



1-5 二条通から西への眺望  
:みやこめっせやロームシアター京都が見える。



1-6 冷泉通から東への眺望

: 東山や平安神宮、岡崎公園の豊かな緑が見える。



1-7 冷泉通から西への眺望  
: 土産物店や美術館が見える。



1-8 西神苑から西への眺望  
: 樹林の間から京都市武道センターが見える。



1-9 東神苑から北への眺望  
: 丸太町通沿いの建築物が見える。



1-10 東神苑から東への眺望  
: 岡崎通沿いの建築物が見える。

## ■ 2 平安神宮周辺の景観

### 【周辺の特徴】

- ・視点場の北側には、熊野神社をはじめ聖護院や東本願寺岡崎別院、金戒光明寺など、歴史ある寺社が立ち並んでいる。
- ・京都の近代化の一翼を担ってきた地域であり、南側には京都市京セラ美術館や京都府立図書館などが整備されている。
- ・東山の緑を借景とし、公共施設の敷地内や寺社の境内の緑、街路樹や生垣など沿道の緑、琵琶湖疏水など、豊かな自然景観を形成している。



2-1 丸太町通から東への眺望  
：東山を背景に神社やホテルが見える。



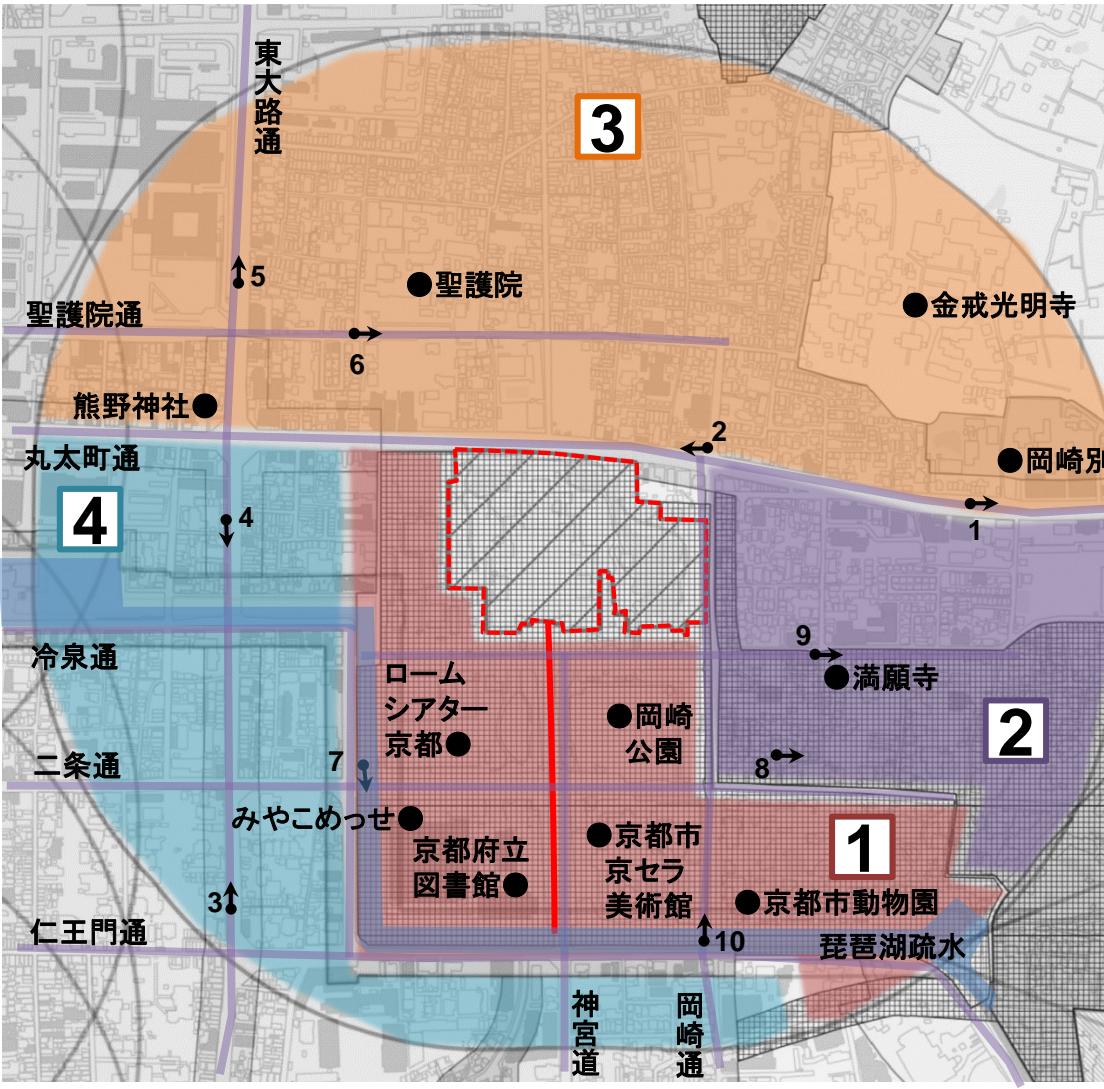
2-2 丸太町通から西への眺望  
：平安神宮の高堀越しに緑豊かな植栽が続いている。



2-3 東大路から北への眺望  
：中低層の建築物が立ち並ぶ。



2-4 東大路通から南への眺望  
：中層のビルや店舗が続いている。



視点場(境内)

視点場(参道等)

主な通り



2-5 東大路通から北への眺望  
：京都大学付属病院の建物が連立している。



2-6 聖護院通から東への眺望  
：東山を背景に聖護院門跡を含む町並みが見える。



2-7 疏水沿いの南への眺望  
：疏水沿いに公共施設が立ち並ぶ。



2-8 古い町並みが残る  
：細い道路に古民家が建ち並んでいる。



2-9 冷泉通から東への眺望  
：新しい集合住宅の向かいには古い社寺が残っている。



2-10 岡崎通から北への眺望  
：通り沿いに動物園や岡崎公園が見える。

# ■3 平安神宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 平安神宮南側		参考写真等	2 平安神宮東側		参考写真等
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> <li>当地は明治中期まで高い生産力を誇る岡崎村の耕作地であった。明治23年(1890)に琵琶湖疏水第1疏水の鴨川合流点までと蹴上から分岐する疏水分線とが完成した。</li> <li>明治28年(1895)、現岡崎公園を会場とする第四回内国勧業博覧会が開催された。美術館、工業館、農林館、機械館、水産館、動物館が主要なものであった(図3-1)。また平安遷都1000年を記念して平安神宮が創建された。同30年代には武徳殿・動物園・岡崎公園、同40年代には府立図書館・市勧業館、大正期に市公会堂、昭和期には市立美術館・京都会館と文化施設が次々と建設され、京都市の美術・文化・学問の中心地となった。</li> </ul>	<p>3-1 第四回内国勧業博覧会図譜及看覽人心得 明治28年(1895)</p>	ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本地域は平安前期から貴族の別荘地として開けた。江戸期の岡崎村の中心地にあたり、豊富な物産を配し近郊農村として高い地位を占めていた。</li> <li>江戸末期になると岡崎村の畠地を利用して加賀藩、阿波藩等の大規模な藩邸が建設され、空地のないほどに埋め尽くされた(図3-5)。</li> <li>明治初期に藩邸等は撤去され、再び畠地へ戻る。</li> <li>昭和5年(1930)に京都市電丸太町線が熊野神社から岡崎天王町まで延長され、観光と住宅の両面から開発が進み市街化していった。</li> </ul>	<p>3-5 京町御絵図細見大成 慶応4年(1868)再刻</p>
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡崎公園のエリアである。平安神宮を北に配し、東山や比叡山を背景として、ロームシアター京都、京都市京セラ美術館、京都府立図書館など近代的デザインの建築物が文化ゾーンらしい景観を形成している。</li> <li>明治32年に平安神宮の参道として整備された神宮道には、大鳥居がシンボリックな存在感を出している。沿道の美術館や図書館などの近代的建築物とあわせて、独特の町並みとなっている。</li> <li>岡崎公園や動物園は、地域住民のみならず市民の憩いの場として親しまれている。神宮道の一部が廃止され岡崎プロムナードとして整備されている。</li> </ul> <p>文化財等：旧武徳殿、京都市美術館本館</p>	<p>3-2 二条通の町並み</p>	イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸太町通の南側沿道は、岡崎中学校や商業ビル、集合住宅が立ち並ぶ。岡崎通にも商店などが多くある。</li> <li>岡崎通から一步東側に入ると、国登録文化財に指定されている関西美術院や、瓦葺屋根の古い木造建築物を多く見ることができる。中でも満願寺やその周辺に残る古民家群は、落ち着いた景観を形成している。</li> <li>東西の通りからは東山を望むことができ、身近に自然を感じることが出来る落ち着いた雰囲気の住宅地である。</li> <li>エリアの東南には京都市の指定名勝である、東山の眺望を活かした白河院庭園があり、その周辺は邸宅が立ち並び、和塀や庭の緑が続く町並みである。</li> </ul> <p>文化財等：満願寺本堂、白河院庭園</p>	<p>3-6 丸太町通の町並み</p>
ウ 景観形成方針	<p>岡崎公園地区特別修景地域</p> <p>風致地区</p> <p>歴史の重層性を感じさせる建築物と水や緑に彩られた広々とした空間の保全。継承を図る。</p>	<p>3-3 神宮道から大鳥居への眺望</p>	ウ 景観形成方針	<p>風致地区</p> <p>岡崎・南禅寺特別修景地域</p> <p>山並み背景型美観地区</p> <p>山ろく部の住宅では、緑豊かな日本瓦ぶき和風建築による落ち着きのある環境を形成している。</p>	<p>3-7 満願寺周辺の古民家が残る町並み</p>
エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>京都会館や、京都府立図書館、京都市美術館、京都市動物園周辺では、これらの魅力ある建築物との調和を図る。</p> <p>広々とした緑豊かな通り景観や都市における自然的景観を保全・継承するため、道路及び疏水に面した既存樹木を保全する。</p>	<p>3-4 仁王門通から東への眺望 遠くに東山が見える。</p>	エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>平安神宮や庭園群からの借景空間の保全や南禅寺北西に広がる邸宅群の景観の保全、仁王門通、神宮道、岡崎道や疏水沿線等の沿道景観の整備、無鄰庵等から東山の借景を望む視線の方向となる南禅寺参道における高さの抑制、意匠・形態等に重点を置く。</p>	<p>3-8 白河院の東の通りの町並み</p>

# ■ 4 平安神宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 平安神宮北側			参考写真等	4 平安神宮西側			参考写真等												
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸期には本地域の大部分が聖護院村に属し、岡崎神社周辺は岡崎村上岡崎、金戒光明寺周辺は岡崎村黒谷門前(黒谷村と呼ばれる場合もある)となる。</li> <li>聖護院村は農耕が盛んで、京野菜の聖護院だいこん・聖護院かぶ・聖護院きゅうりの発祥地である。</li> <li>明治5年(1872)設立の京都牧畜場は日本初の西洋式牧場の始まりである。</li> <li>明治32年(1899)には、牧畜場を含む広大な用地が買収され、京都帝国大学医科大学付属病院が開業した。</li> <li>病院の付属施設が完成するに従い、病院前には宿屋や雑貨店が開店し町並みをつくっていった(図3-9)。</li> </ul>		<p>3-9 最新京都市街全圖 大正4年(1915)</p>	ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリア西側の正往寺町には、正往寺をはじめとする浄土宗寺院10か寺が立ち並んでいる。宝永5年(1708)の宝永の大火の後、寺町通の東側にある荒神口から二条の間の寺院が替地を与えられ、そのうちの大部分が鴨川東の岡崎村畠地へ移転したことが町形成の発端である。寺院移転後、時期は不詳であるが仁王門通西寺町西入北側に門前町的な性格を持つ町並みが形づくられ正往寺前町と称されていた。</li> </ul>		<p>3-13 京町御絵図細見大成 慶応4年(1868)再刻 赤囲いは正往寺町の範囲。 10か寺の名が記載されている。</p>												
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸太町通の北側沿道は、住宅や中層マンション、寺社などが立ち並んでおり、落ち着いた雰囲気である。東大路通に近づくと商業系の建築物が増える。</li> <li>落ち着いた住宅地で、聖護院や岡崎神社など歴史的資産も数多く歴史を感じさせる町並みとなっている。</li> <li>東方には、金戒光明寺やその塔頭、真如堂などがあり、東山を背景に黒谷の緑が相まった、特徴的な景観を形成している。</li> <li>西方には、商業ビルや京都大学付属病院など、熊野神社などの寺社が混在している。</li> <li>視点場の北方には、錦林小学校や白河支援学校、京都大学などの教育施設が点在する。</li> </ul> <p>文化財等：聖護院書院、金戒光明寺三重塔、熊野神社、栗原邸、聖護院ハッ橋総本店</p>		<p>3-10 丸太町通の町並み</p>	イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>東大路通沿いは、低層の商店や住宅などが並ぶ中に、中層のマンションやビルも混在する。</li> <li>寺社も多く、細街路や密集した住宅地がある。</li> <li>熊野神社の木々がこんもりと森のように見え、出店が出て野菜や果物などが賑やかに売られている。</li> <li>疏水沿いからは東には東山が望め、西には発電所が見える。</li> <li>二条より南には寺が多くあり、東大路通沿いにも大きな寺がいくつも建っている。</li> <li>仁王門通は両側に寺院が立ち並び、住宅も昭和初期のものが多く、歴史を感じさせる町並みとなっている。</li> </ul> <p>文化財等：西川家住宅(主屋、土蔵)、大野邸</p>		<p>3-14 東山仁王門から北への眺望</p>												
ウ 景観形成方針	<table border="1"> <tr> <td>風致地区</td> <td>山並み背景型美観地区</td> <td>沿道型美観形成地区</td> </tr> <tr> <td>金戒光明寺一帯は、落ち着いた緑の風景を作り出しており、独特の地域景観を醸成する役目を果たしている。</td> <td>真如堂、金戒光明寺等の社寺と東山の山並みと一緒に眺望することができる景観特性を継承する。</td> <td>歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することができないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮する。</td> </tr> </table>	風致地区	山並み背景型美観地区	沿道型美観形成地区	金戒光明寺一帯は、落ち着いた緑の風景を作り出しており、独特の地域景観を醸成する役目を果たしている。	真如堂、金戒光明寺等の社寺と東山の山並みと一緒に眺望することができる景観特性を継承する。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することができないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮する。		<p>3-11 聖護院通の町並み</p>	ウ 景観形成方針	<table border="1"> <tr> <td>岸辺型美観地区</td> <td>旧市街地型美観地区</td> <td>沿道型美観形成地区</td> </tr> <tr> <td>琵琶湖疏水は、豊かな水量と疏水沿いの柳や桜等の樹木と調和し、潤いと緑豊かで良好な岸辺景観を形成している。</td> <td>西寺町通の沿道周辺は寂光寺などの広大な敷地と伽藍を有する寺院が集積し歴史的な町並みを形成している。</td> <td>歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。</td> </tr> </table>	岸辺型美観地区	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区	琵琶湖疏水は、豊かな水量と疏水沿いの柳や桜等の樹木と調和し、潤いと緑豊かで良好な岸辺景観を形成している。	西寺町通の沿道周辺は寂光寺などの広大な敷地と伽藍を有する寺院が集積し歴史的な町並みを形成している。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。		<p>3-15 仁王門通から東への眺望 遠くに東山が見える。</p>
風致地区	山並み背景型美観地区	沿道型美観形成地区																	
金戒光明寺一帯は、落ち着いた緑の風景を作り出しており、独特の地域景観を醸成する役目を果たしている。	真如堂、金戒光明寺等の社寺と東山の山並みと一緒に眺望することができる景観特性を継承する。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することができないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮する。																	
岸辺型美観地区	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区																	
琵琶湖疏水は、豊かな水量と疏水沿いの柳や桜等の樹木と調和し、潤いと緑豊かで良好な岸辺景観を形成している。	西寺町通の沿道周辺は寂光寺などの広大な敷地と伽藍を有する寺院が集積し歴史的な町並みを形成している。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。																	
エ 求め建築計画等に	<p>黒谷の住宅地の和風デザインの水準の向上、貴重な緑である斜面地の樹木の保全に重点を置く。</p> <p>社寺周辺の建築物は、勾配屋根の和風基調の外観を基本とし、歴史的な町並み景観の保全を図る。</p>		<p>3-12 熊野神社前の東大路通から北への眺望</p>	エ 求め建築計画等に	<p>疏水沿いの樹木や東山の山並みと調和するよう、積極的に緑化する。現代建築物は、岸辺や緑等の自然景観と調和するよう配慮し、良好な岸辺景観を保全する。</p>		<p>3-16 東山仁王門から西への眺望</p>												

- 3-1 「西京區組明細圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「京町御絵図細見大成」西尾市岩瀬文庫／古典籍書誌データベース (<https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/2321315100>)
- 3-9 「最新京都市街全圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-13 「京町御絵図細見大成」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)